

第7回 在宅医療推進委員会・記録

日時：平成24年6月14日（木）午後7時～午後9時10分

場所：鳥取県西部医師会館 3階 講堂

出席者：野坂会長、飛田副会長、寶意理事、辻田常任理事、安達常任理事、吹野参与、小林理事
藤瀬参与、石井参与、面谷参与、越智参与、松野参与、田辺先生、福田先生、三上先生
鳥取大学 谷口晋一先生 博愛病院 楠本智章先生
米子医療センター 山根成之先生、松永佳子先生
山陰労災病院 神戸貴雅先生、松ヶ野恵氏 済生会境港総合病院 佐々木祐一郎先生
真誠会 小田貢先生、小山雅美氏 訪問看護ステーション博愛 石橋佐智子氏
居宅介護支援センターやわらぎ 生田真由美氏、岩田美幸氏
鳥取県長寿社会課長 日野力氏 米子保健所 大城陽子氏

【協議事項】

1. 在宅医療・看取りアンケートについて

- ・県のデータとアンケート結果に開きがある。⇒横のつながりが出来ていない。
- ・県のデータを病院が把握していない。PRが出来ていない状況にある。
- ・アンケート結果から
緊急時の対応、第2第3の連絡先の確保。
往診が出来るエリア情報が知りたい。
- ・クロス集計について
提案された集計については作業を進めていく。
追加したい集計があれば事務局へ連絡する。

2. 第6回委員会協議結果をふまえた意見

1) 医療者向け

①サポート事業

三上先生・福田先生を中心として案を作成。MLを活用して情報交換を行う。

②病診連携

後方支援について（在宅患者が入院を必要とする状態になった時の病院側の支援）

- ・救急受け入れ…輪番制・救急隊との連携（違う病院がかかりつけの場合の搬送依頼）
病院間での話し合いも必要。

- ・元々の患者なら最期まで病院で診るが、そうでないとむずかしい。

前方支援について（入院患者の在宅医療に向けての開業医側の病院に対する支援）

- ・かかりつけ医をもたない患者が退院する時。
- ・紹介元のかかりつけ医が受けてくれない時。
- ・病院も患者もどこでどういう医療が受けられるのかわからない。

開業医・勤務医、両方への「在宅死」へのコンセンサス作り。

（もう病院では死ねなくなる。病院は死ぬ場所ではない。）

「なにかあったらすぐ病院」は通用しなくなる。

対策案…在宅死（数年先でもいつかはあの世へ行く）を見据えて
当初から在宅看取り医と繋がり作り。

2) 住民向け

①住民への働きかけ

⇒死をタブー視しないで、元気な時から最後について話し合う。

- ・家族の同意・覚悟が必要。住民サイドへのアプローチをどうしていくのか。
- ・病院では死ねなくなる。（2030年死に場所がない人は47万人に達すると言われている。）
- ・「あの世へのパスポート」「エンディング・ノート」
- ・アンケート・講演会・フォーラムの実施
- ・死に逝く人の道しるべ（医療と宗教の協働）←文芸春秋 奥野医師から

3. その他

- ・医学生へどうアプローチしていくのか。
- ・中山間地の独居老人
- ・訪問看護ステーションの状況調査
- ・地域包括ケアシステム
- ・今後の課題

困った時の相談窓口

眼科・皮膚科等で往診できるところ（サポート体制）

◎ MLを活用して情報交換をしていく。